

第7回千曲川中流域砂礫河原再生検討会

第6回検討会における指摘と対応事項

平成29年9月15日

国土交通省 北陸地方整備局 千曲川河川事務所

○ 第6回砂礫河原保全再生検討会での資料概要

第6回では以下の4項目について議論を実施

■ モニタリング結果

- ・ 事後モニタリング：H26施工箇所、H27施工箇所（砂礫再生箇所の植生の再繁茂状況など）
- ・ 事前モニタリング：H28施工予定箇所

■ H28年度の出水報告

- ・ 主にH27 施工箇所の状況について概況報告

■ H28年度掘削予定箇所について

- ・ 施工箇所の設計図面

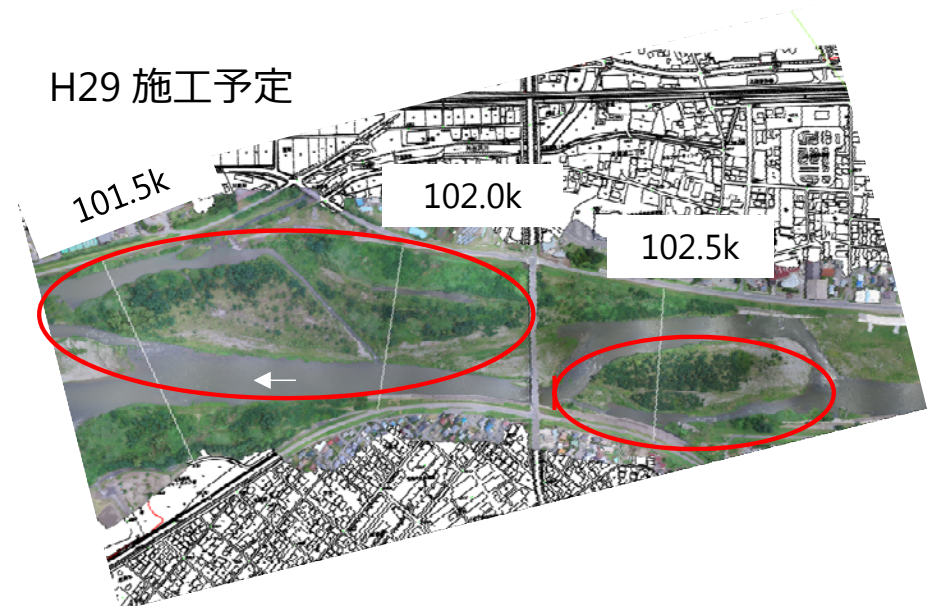
■ H29年度掘削予定箇所について

- ・ 施工箇所の概要
- ・ 掘削コンセプト

施工箇所位置図



H29 施工予定



■ モニタリング調査について

検討会における指摘	対応
【H27 施工箇所：植生図作成調査】 H27施工箇所において春季・夏季にシロバナシナガワハギが繁茂しており、当初の予測と違うと思うが、要因は分かっているのか。また、施工箇所での冠水の履歴が重要なのであればそのような情報についても今後合わせて整理したほうが良いのではないか。	・ 明確な要因は分かっていないが、出水によってシロバナシナガワハギ群落は消失し、H28秋季調査では確認されなかった。引き続き、H29も秋季調査を実施し、植生の状況を確認する。 ・ 流路の水位観測結果から、想定される冠水履歴を整理した。 ※資料-3 p6,7参照
【H29施工箇所：植生図作成調査】 H29年度は調査を実施しないこととなっているが、H28年度の調査から施工まで1年間開くことになるため、H29年度においても施工の直前に調査を実施するのが妥当ではないか。	・ H29施工箇所についてはH28年度末に伐採・除根を実施しており、事前調査結果としてはH28年度調査結果を用いることが妥当であり、掘削直前の再調査は不要と考える。ただし、植物指標種調査のみ夏季に実施し、施工時の配慮事項を検討する。 ※資料-3 p20参照
【底生動物調査・付着藻類調査】 底生動物や付着藻類は生活環が非常に短い生物であり、出水直後に調査を実施した場合は、流量の変化による影響を受けた調査結果になると考えられる。そのため、水位変動の履歴等も合わせて示してほしい。	・ 第5回モニタリング部会（H29.2）以降の資料では、調査結果と水位変動の履歴を合わせて示すこととした。 ※資料-3 p9-12,22,23参照
【H28 施工箇所：湧水調査】 水温及び水質の調査結果より、水辺の楽校のワンドである左2（平和橋上流左岸側本川寄りのワンド）は本川とは異なると考えられ、本川からの伏流を期待した導流路から入水がない可能性もあり、この要因について調査が必要。	・ H28.10より水温計を設置し、1年間の水温測定を実施している。（調査時期：H28.10.15～H29.10.14） ・ ワンドと本川と温度差が見られる期間があり、平成29年度も引き続きモニタリング調査を行い、確認する。 ※資料-3 p16参照

1.検討会における指摘と対応の方向 (2)指摘対応

■ 平成29年度掘削予定箇所について

検討会における指摘	対応
古舟橋だけでなく、102k付近でも河床が低下しており、護岸基礎への安全性を確認した方が良い	・ 施工図面より基礎と最深河床高の関係から現状の安全度を確認 → 確認結果は資料 4 に記載